

産科フィスチュラ

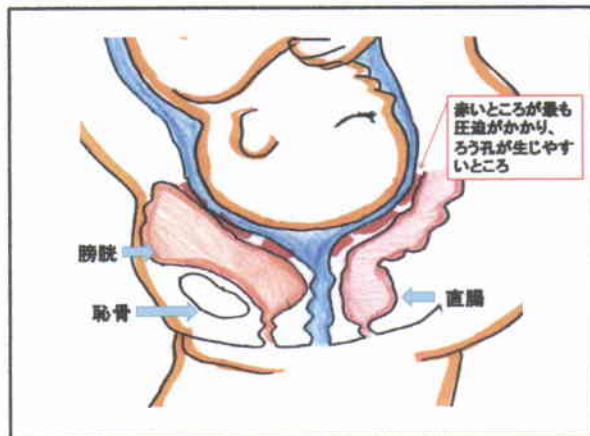
200万人以上の
産科フィスチュラ女性を救え！！

産科フィスチュラとは??

- ◆ 産科フィスチュラ(ろう孔:穴)とは、長期に渡る陣痛の結果、胎児の頭が、母体の産道を圧迫し、直腸や膀胱に穴をあけてしまうことである。
- ◆ 患者は、子どもを失うことの精神的ダメージばかりでなく、排泄機能に障害(尿漏れなど)が起こるため、社会からの阻害、差別、孤独、感染症などに苦しむことになる。
- ◆ フィスチュラは手術により治療可能な病気である。

どうしてなるの???

- ◆ 出産時に、医療者の介入が必要とされる難産が続く時、産道の壁に児頭が長時間圧迫することにより、虚血性壊死(血液の流れが止まり細胞が壊されること)が起こり、臓と隣接する臓器の間にろう孔が生じる。



だれがなるの???

- ◆ 若年出産は、骨盤未発達や(骨盤より赤ちゃんが大きく難産になる)栄養不良(若年妊婦の成長不全、産道の組織がもろい)などの複数要因に基づき、十代の初産に一番多くみられる。赤ちゃんの頭のサイズが骨盤より大きいと難産により経産婦にも起こりうる。
- ◆ サハラ以南アフリカでは、若年出産の割合が非常に高く、18歳までに出産する割合は4人に1人以上、中南、東南アジアでも多くみられる。

◆ 早すぎる結婚

私たちは、古くからの慣習として娘の純潔を守るために、そして娘を養う余裕がないために結婚するには幼い年齢で結婚させる。

15歳までに結婚した15-18歳までの少女の割合

バングラデシュ	ニジェール	ニカラグア
27.3%	27.3%	9.4%

◆ 早すぎる結婚の割合

※18歳より前に結婚または婚姻として認められる結婚の状態にあった20-24歳の女性の比率

バングラデシュ	ニジェール	ニカラグア
64%	75%	45%

◆ 専門技術者が付き添う出産の比率

東チモール	エチオピア	ハイチ	日本
18%	6%	28%	100%

データ出典:ユニセフ

どこで起きているの???

- ◆ サハラ以南アフリカ、中東、南アジアといったエリアの国々。通常、遠隔地で医療の手が届きにくいエリアの国々。



症状は???

- ◆ ろう孔のできた部位により違う。
 - ① 膣と尿路系: 膣からの不随意的な漏れを自覚する。しかし、おりものの増加と自覚され、発見が遅れることもある。
 - ② 膣と消化器系: 膣からガスあるいは、便の不随意的な漏れを自覚する
- ◆ 足の付け根の組織の損傷に伴い、歩行困難になることもある。

医療行為としての予防と治療は?

- ◆ 予防
長時間にわたる分娩を避けるべく、適切な時期の分娩介入が必要。→ 専門技能者の手当てが必要
- ◆ 治療
手術的治療が必要になる。ろう孔の位置、程度(大きさ、炎症の有無)により、修復術の難易度が大きく変わる。
治療費用: 300\$ (日本円3~5万円程度)で9割が治癒する。

治療すれば治るのになぜ200万人も患者がいるのか???

- ◆ 世帯の年間収入を超える負担額。支援団体などの無料治療(アジスアベバ・フィスチュラ・ホスピタル)の機会を待つ女性が100人単位で住み着いてしまった病院もある。待機患者の中には、10年以上の人もいる。
- ◆ 女性が家を長期間離れてはいけないうという伝統的しきたりにしばられ入院を必要とする治療に踏み切れないでいるものがある。
- ◆ 尿漏れが生じていることにより、公共のバスに乗ることをためらったり、時には乗車拒否される場合もあり、病院へたどりつくことが出来ない女性もいる。

産科フィスチュラ撲滅支援

- ◆ フィスチュラ治療(往復交通費込み)を無料で行うアジス・アベバ・フィスチュラホスピタルを支援すること。
- ◆ 病院は現在多くの女性たちに治療が行きとどくように、地方過疎地に5か所の診療所を建設中。長期療養患者へのケアや自立支援、他国に赴任する医師のトレーニングなどを行っている。

私たちが出来ることは???

- ◆ フィスチュラの現状を知る
- ◆ 多くの人に知ってもらえるように伝えていく
- ◆ アジス・アベバ・フィスチュラ・ホスピタルを支援する
支援窓口: ハムリンフィスチュラジャパン

ご協力お願いします<m()m>

その他:感想などの自由記載 :

- ・フィスチュラの女性や子どもが減ってほしい
- ・フィスチュラについて知ることが出来て良かった
- ・フィスチュラを知らなかったので、今回のことはよい機会だと思う
- ・フィスチュラなど知らない病気等を知ることが出来て良かった
- ・フィスチュラについて説明を聞くことが出来て良かった
- ・日本の中にいるとあたりまえに思えることが、発展途上国から見たら、とても幸せなことなんだと実感した

177人のアンケートが得られ、正確に人数は数えていないのですが200人位来訪があり、産科フィスチュラの展示を見ていました。アンケート結果にもあるのですが、やはり、ほとんどの方(おおよそ9割)が産科フィスチュラを知りませんでした。私たちが講義を聞くまで産科フィスチュラというものを知りませんでしたので、一般の方はなおさら聞く機会もないと思います。しかし、出産経験のある方、20代の大学生(男女ともに)来てくださった方々が興味を持って説明を聞いてくれ、フィスチュラの女性の現状、悲惨さを実感し、フィスチュラを知れてよかったという声も聞かれました。また、女性の助けになればと募金にも協力してくれました。

募金の合計:39475円となりました。

今回の展示で、少しでも産科フィスチュラ女性の支えになればと準備を進めてきました。来訪してくださった方々に十分ではないと思いますがほんの少し分かっていただけたのではないかと思います。その少しが、フィスチュラ女性を支えるきっかけになればいいなと思います。

フィスチュラ担当

2年生:小林亜企、道祖土ひとみ、篠江美香、中川肇子(助産師免許なし 免許取得コース)

1年生:大野みな子、古川留美子(助産師免許あり 実践コース)

